

令和元年度 林野公共事業事業評価技術検討会 議事概要

- 1 開催日時 令和2年1月30日 9:55~11:40
- 2 開催場所 北海道森林管理局2階 第2会議室
- 3 出席者 委員：丸谷委員長、樽見委員、庄子委員
局担当者：総務企画部長
森林整備第一課長、森林整備第一課企画係
森林整備第二課長、森林整備第二課課長補佐
森林整備第二課路網整備係長
監査官、監査係長

4 議事

- (1) 森林整備事業（完了後の評価4件）について
- (2) 森林整備事業（事前評価2件）について

5 議事概要

- (1) 森林整備事業（完了後の評価）
（森林整備第一課企画係より森林整備事業に係る完了後の評価について説明）

（委員）

日高北部森林管理署の事業の概要・目的について、北海道胆振東部地震（平成30年9月6日発生）に対応する記載は必要ないか。

（局）

北海道胆振東部地震は平成30年9月6日に発生しており、今回の評価対象期間は平成22年度～平成26年度（5年間）で該当しないため、記載していません。なお、北海道胆振東部地震による国有林の森林被害はありませんでした。

（委員）

今後の課題等について、「有用広葉樹の天然更新木を活用した針広混交林への誘導等多様な森林整備を行うことが重要であると考えている。」と各個表に記載されているが、施業実績量（更新総量）から複層林造成等の少ない日高北部署と日高南部署においては、今後実施するという理由から、このように記載されたのか。

（局）

今後の課題・取り組みとして記載しています。これまでの単層林施業の考え方を踏まえ、トドマツ・カラマツなどのほか多様な森林づくりとして広葉樹も育成していく考えです。

(局)

多様な森林づくりは、北海道森林管理局として最重点取組事項として進めており、戦後の復興期に大量伐採し植林した結果、植生や土壌の関係で広葉樹化した森林があります。今後はそのような所を生かしていきたいと考えています。

(委員)

天然林施業に移行していくことは理解できるが、天然林を残していった時に川下との繋がりをどうするのか。広葉樹は有用だが最終的にどのように製材工場に流れお金になるのか、通直な材を育成していくのか、そのようなところまで考えた方がよい。

(局)

川下として広葉樹の活用は、道内では旭川の家具など木材利用がメインではないか。林分密度が高い一斉林であれば通直な中径木に成長するが、そこから中大径木へと誘導するのが難しいところです。天然木の育成は課題と考えています。

(委員)

分析結果 B/C について、平成 20 年度の評価時点と比べた時に、①総費用が増加して便益が増加したタイプ、②総費用が増加して便益が減少したタイプ、③総費用と便益が減少したタイプの 3 タイプに分類されるが、全ての要因の記載が同じである。分析結果に基づき要因を記載すべきである。

(局)

記載について検討します。

(委員)

林業就業者数が減少している中、労働力を機械化で補うことは重要だが、機械を増やすだけではなくオペレータの育成が重要である。その点について記載してはどうか。

(局)

記載について検討します。

(委員)

日高北部署の評価結果について、流域の出口が「本シシャモ」の漁場となっており、通常の漁業とは異なる貴重な水産資源であることから、その点について記載してはどうか。

(局)

記載について検討します。

(委員)

評価結果について、日高地区は山が急峻であり地質も脆弱な蛇紋岩である。通常の林道整備では難しいため、急傾斜地や地質に留意した林道整備について記載してはどうか。

(局)

記載について検討します。

(委員)

費用集計表の事業費について、年度によって増減があるがなぜか。

(局)

最初の5年間以降は維持管理費となっており、森林整備では植栽、下刈、除伐、間伐等の施業を実施するシミュレーションし費用を算出しています。そのため、作業の発生する年と発生しない年によって事業費の差が発生しています。

(2) 森林整備事業（事前評価）

(森林整備第一課企画係より森林整備事業に係る事前評価について説明)

(委員)

チェックリストⅡの1の(2)及び3の(3)の③について、それぞれの森林計画区でB評価とした理由を説明されたい。

(局)

A判定の「山村地域への定住の促進に寄与する計画」に該当するとは考えにくく、B判定の「山村の生活基盤の向上に寄与する計画」に該当すると判定しました。同じく、A判定の「直近3カ年以内に事業計画区域内で激甚災害に指定された森林災害が発生したことがある。」に該当しないため、B判定の「過去に事業計画区域内で森林災害が発生したことがある。」と判定しました。

(委員)

日高森林計画区の完了後の評価に比べ事前評価では、更新面積と保育面積が増加しているが、総費用も同程度の増とならないのはなぜか。

(局)

更新面積及び保育面積は、総費用の算出にあたり実行面積ではなく区域面積を使用しているため単純に面積で比較ができないところです。

(委員)

日高森林計画区と檜山森林計画区の総費用を比較した場合、日高地区は山が急峻で費用が割高になるのはわかるが、渡島檜山計画区の総費用が高いのはなぜか？

(局)

地形等によって林班区域の取り方がちがうことが考えられます。

(局)

保育間伐の存置型と活用型では、事業費の単価も異なるためその差も考えられます。

(委員)

事業概要図に添付する写真について、今後はドローンを使用した写真を活用してみてはどうか。

(局)

次回から検討します。

以上